

「地域とともにある学校」を目指して

沖縄県立美里工業高等学校は、昭和43年に琉球政府立中部産業技術学校として開校し、工業に関する学科、機械科、電気科、建築科、設備工業科及び家庭に関する学科、調理科を設置する専門高校で、今年度で58周年を迎えた歴史と輝かしい伝統を持つ学校です。

「自主・敬愛・勤労」の校訓の下、創立以来県内外へ多くの卒業生を輩出し、現在では1万1千5百名あまりの優秀な卒業生の母校となっております。

これまでも本校は、素晴らしい教育環境を提供し、豊かな教育プログラムにより、多くの生徒たちに有意義な学びを提供してまいりました。生徒たちは、美工生としてのプライドを持ち、将来の夢実現に向けて資格取得や各種コンテスト・競技大会への参加、部活動など充実した高校生活を送っています。

また近年、社会は急激に変化し、求められる人材も変化してきています。その変化に柔軟に対応するとともに、本校の歴史と伝統をしっかりと受け継ぎ、産業界や地域社会との強い連携を重視し、地域や社会の健全で持続的な発展を担う産業人の育成を進めていきたいと考えます。

「地域とともにある学校」として、生徒と職員、保護者や地域との繋がりを大切にし、連携強化に努めていきます。生徒たちが実践的な知識や技能を身につけることができ、未来の夢実現へつなぐ支援を行うことはもちろん、学習活動や特色ある教育課程の充実を図っていきます。すべての教育活動を通して、生徒一人一人の個性を尊重し、伸ばさせる取り組みを実践することで、全生徒が「美里工業高校に入学して良かった。」と思う学校となるよう全職員、全力で取り組んで参ります。どうぞ、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和7年4月
沖縄県立美里工業高等学校
校長 真喜屋 強史